



CLI ベースのセットアップ プログラム によるスイッチの設定

この付録では、スタンドアロン スイッチのための CLI (コマンドライン インターフェイス) ベースのセットアップ手順が記載されています。スイッチを電源に接続する前に、[第 2 章「スイッチのインストール」](#) および付録 C [「DC 電源への接続」](#)にある安全性に関する警告を確認してください。

コンソール ポート経由での CLI へのアクセス

スイッチのコンソール ポートを PC またはワークステーションのシリアル ポートに接続し、Telnet セッションを通じてスイッチにアクセスすることによって、設定済みまたは未設定のスイッチの CLI にアクセスできます。

端末エミュレーション ソフトウェアの起動

スイッチの電源をオンにする前に、Power-on Self-Test (POST; 電源投入時自己診断テスト) の出力表示を見ることができるよう、端末エミュレーション セッションを開始します。

端末エミュレーション ソフトウェア (多くの場合、Hyperterminal または ProcommPlus などの PC アプリケーション) により、スイッチと PC または端末間での通信が可能になります。

端末エミュレーション セッションを開始する手順は、次のとおりです。

-
- ステップ 1** PC または端末を使用して、端末エミュレーション プログラムを起動します。
- ステップ 2** コンソール ポートのデフォルト特性に合わせて、PC または端末のボーレートおよびキャラクター フォーマットを次のように設定します。
- 9600 ボーまたは 115200 ボー (推奨値)
 - 8 データ ビット
 - 1 ストップ ビット
 - パリティなし
 - フロー制御なし
-

スイッチに電源を投入するには、AC 電源コードの一方の端をスイッチの AC 電源コネクタに接続し、もう一方の端を AC 電源コンセントに接続します。

DC スイッチに電源投入するには、[付録 C 「DC 電源への接続」](#) を参照してください。

初期設定情報の入力

スイッチを設定するには、セットアップ プログラムを完了する必要があります。セットアップ プログラムは、スイッチの電源がオンになると自動的に実行されます。スイッチがローカル ルータやインターネットと通信できるようにするには、IP アドレスおよびその他の設定情報を割り当てる必要があります。

IP の設定

セットアップ プログラムを実行する前に、ネットワーク管理者から次の情報を入手してください。

- スwitchの IP アドレス
- サブネット マスク (IP ネットマスク)
- デフォルト ゲートウェイ (ルータ)
- イネーブル シークレット パスワード
- イネーブル パスワード
- Telnet パスワード

セットアップ プログラムの完了

次の手順でセットアップ プログラムを完了し、スイッチの初期設定を作成してください。

ステップ 1 次の 2 つのプロンプトに **Yes** を入力します。

```
Would you like to enter the initial configuration dialog? [yes/no]: yes
```

```
At any point you may enter a question mark '?' for help.  
Use ctrl-c to abort configuration dialog at any prompt.  
Default settings are in square brackets '[]'.
```

```
Basic management setup configures only enough connectivity  
for management of the system, extended setup will ask you  
to configure each interface on the system.
```

```
Would you like to enter basic management setup? [yes/no]: yes
```

ステップ 2 スwitchのホスト名を入力し、**Return** キーを押します。

コマンド スwitchでは、ホスト名は 28 文字以内、メンバー スwitchでは 31 文字以内に制限されています。どのスswitchも、ホスト名の最後の文字として **-n** (n は数字) を使用することはできません。

```
Enter host name [Switch]: host_name
```

ステップ 3 イネーブル シークレット パスワードを入力し、**Return** キーを押します。

このパスワードは 1 ~ 25 文字の英数字で指定できます。先頭の文字を数字にしてもかまいません。大文字と小文字が区別されます。スペースも使えますが、先行のスペースは無視されます。シークレット パスワードは暗号化されますが、イネーブル パスワードはプレーンテキストです。

```
Enter enable secret: secret_password
```

ステップ 4 イネーブル パスワードを入力し、**Return** キーを押します。

```
Enter enable password: enable_password
```

ステップ 5 仮想端末 (Telnet) パスワードを入力し、**Return** キーを押します。

このパスワードは 1 ~ 25 文字の英数字で指定できます。大文字と小文字が区別されます。スペースも使えますが、先行のスペースは無視されます。

```
Enter virtual terminal password: terminal-password
```

ステップ 6 (任意) プロンプトに従って、SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) を設定します。また、あとで CLI を使用して SNMP を設定することもできます。あとで SNMP を設定する場合は、**no** を入力します。

```
Configure SNMP Network Management? [no]: no
```

ステップ 7 管理ネットワークに接続するインターフェイスのインターフェイス名 (物理的なインターフェイスまたは VLAN [仮想 LAN] の名前) を入力して、**Return** キーを押します。このリリースでは、インターフェイス名には必ず **vlan1** を使用してください。

```
Enter interface name used to connect to the  
management network from the above interface summary: vlan1
```

ステップ 8 インターフェイスを設定するために、スイッチの IP アドレスとサブネット マスクを入力し、**Return** キーを押します。次に示されている IP アドレスとサブネット マスクは単なる例です。

```
Configuring interface vlan1:  
Configure IP on this interface? [yes]: yes  
IP address for this interface: 10.4.120.106  
Subnet mask for this interface [255.0.0.0]: 255.0.0.0
```

ステップ 9 **Y** を入力すると、スイッチはクラスタ コマンドスイッチとして設定されます。**N** を入力すると、スイッチはメンバー スイッチまたはスタンドアロン スイッチとして設定されます。

N を入力した場合、あとで CLI を使用してスイッチをコマンドスイッチとして設定できます。あとで設定する場合は、**no** を入力します。

```
Would you like to enable as a cluster command switch? [yes/no]: no
```

これで、スイッチの初期設定は完了しました。初期設定が表示されます。以下に出力例を示します。

```
The following configuration command script was created:
hostname switch1
enable secret 5 $1$U1q8$D1A/OiaEbl90WcBPD9cOn1
enable password enable_password
line vty 0 15
password terminal-password
no snmp-server
!
no ip routing

!
interface Vlan1
no shutdown
ip address 10.4.120.106 255.0.0.0
!
interface FastEthernet1/0/1
!
interface FastEthernet1/0/2

interface FastEthernet1/0/3
!
... (テキスト出力は省略)
end
```

ステップ 10 選択内容は次のように表示されます。

```
[0] Go to the IOS command prompt without saving this config.
```

```
[1] Return back to the setup without saving this config.
```

```
[2] Save this configuration to nvram and exit.
```

この設定を、次回スイッチを起動した際に使用するために保存する場合は、ここで 2 を選択し、NVRAM（不揮発性 RAM）に設定を保存します。

```
Enter your selection [2]:2
```

いずれかを選択して **Return** キーを押します。

セットアッププログラムの完了後は、作成したデフォルトの設定をスイッチで稼働させることができます。この設定を変更したり、他の管理タスクを実行したりするには、CLI を使用します。

CLI を使用するには、端末プログラムによってコンソールポートから、あるいは Telnet によってネットワークを介して、*Switch>* プロンプトにコマンドを入力します。設定情報については、スイッチのソフトウェア コンフィギュレーション ガイドまたはスイッチのコマンドリファレンスを参照してください。

Cisco ME 3400-12CS スイッチを単一電源装置で使用している場合、**no power-supply dual** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力し、2 番目の電源装置が動作していないことを示すアラームをスイッチが送信しないようにします。

■ 初期設定情報の入力